



## 橋の補修工事

平成26年7月1日より道路法施工規則が改正され、橋梁の5年ごとの近接目視による定期点検が義務付けられました。

劣化が進行してから修繕を行う「事後対応」ではなく、損傷が軽微なうちに修繕などの対策を講じる「予防保全」の考え方により、メンテナンスサイクルを構築し、橋梁を長寿命化する仕組みが構築されつつあります。

◆下地処理(素地調整)として行うケレンには、塗る面を整え、塗料の付着を良くするという目的があります。



ケレンを行った箇所が滑らかになっています。

◆老朽化した塗膜や錆を除去し、下塗→中塗→上塗と何層にも塗替えを行うことで、耐久性を向上させます。



防食下地の塗装



中塗りの様子



上塗りが完了したところ

◆雨水などの水分や塩分の侵入を防ぐために、止水工や水切工などの工程を施します。



止水材の充填

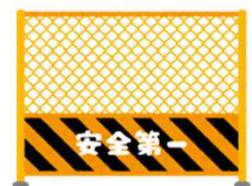


before

水切工の施工



after



◆工事中も、完成後も、安全第一です。



吊足場の組立



交通規制看板の設置



交通誘導員の配置



転落防止柵の設置

※写真は、「令和4年度 橋梁長期保全事業 橋梁補修工事(上河原橋)」の様子です。